

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」の 編集にあたって

関谷 貴之^{1,a)}

1. 第5巻第1号刊行にあたって

2015年4月より「情報処理学会論文誌：教育とコンピュータ」(IPSJ Transactions on Computers and Education, TCE)の編集委員を務めております。本誌が刊行できるのは、論文をご投稿いただいた著者の皆様やそれらの論文を査読してくださった先生方、諸々の業務に携わる情報処理学会事務局関係者の皆様のおかげです。心より感謝しております。

付け加えさせていただくと、TCEの編集委員会を構成する各委員も日夜尽力しています。この編集委員の業務の一部は、Webベースの査読管理システムの操作や査読報告書の催促など、「情報技術を活用することにより教育学習活動の改善・向上に資することを目的とした研究や、情報教育に関連する研究の成果発表の場」である本誌の目的からは少々外れた事務的な作業です。作業の不備によって、著者や査読者の皆様にご迷惑をお掛けしたことも、時にはあったかと存じます。この場を借りてお詫びいたします。

査読管理システムの作業負担については、クラウドサービスとして提供されるメジャーな査読管理システムに乗り換えることで金銭的に解決するか、システムに精通した担当者がつねに張り付くことで人的に解決を図るかなどが考えられますが、トランザクションの編集委員会としては大きなコストをかけることは困難です。そこで、そこそこのコストで現行のシステムを改良する動きが進んでおります。短期間で劇的に解決するのは無理にしても、関係者の負担が少ないシステムを実現できることを願って止みません。

なお、私の任期は2019年3月までで、本号が刊行されればしばらくすると、晴れて御役御免となります。任期中私自身は大した仕事ができなかったですが、今後はTCEが無事運営されるよう外野から応援していきたいと考えております。

2. 本号掲載論文の紹介

本号では2編の招待論文を含む5編の論文を掲載してい

ます。

- 招待論文「ラーニングアナリティクスへの普及へ向けて—ICT利活用教育研究を振り返って」は、教育における情報の役割を考察するとともに、著者が行ってきたICT利活用教育の実践研究について振り返り、教育や学習のプロセスを可視化しようとするラーニングアナリティクスの在り方について論じています。
- 招待論文「学校教育でのプログラミング必修化と情報専門家への期待」は、2020年度より小学校から高等学校までのすべての教育段階においてプログラミング教育が実施されることをふまえて、学校教育におけるプログラミング教育の内容と、著者自身によるプログラミング教育の研究について報告しています。
- 「畿央大学におけるアクティブ・ラーニング環境の整備—COPE方式による全学生PC必携化の実現とICT利活用能力育成科目の導入」は、アクティブ・ラーニングを実施する環境として大学が用意したPCを全学生に貸与する取り組みについて、学内での合意形成や運用時の諸問題なども含めて詳しく報告しています。
- 「スマホ依存改善支援アプリにおけるゲーミフィケーション応用と定量的評価」は、スマホ依存を改善するために一定時間スマートフォンをロックするアプリについて、利用者が自らこのアプリを継続して利用する意識を高められるよう、著者が導入した各種のゲーム要素の効果を定量的に評価して検証しています。
- 「教育成果の質と量に関するWeb調査を対象とする柔軟性の高いアンケートシステム」は、アンケート調査の回答者、実施者及び分析担当者の負担を減らすべく、Webベースのアンケート収集・分析システムにExcelやAccessなどを組み合わせることで構成されたシステムについて、システム本体及び実際に大規模なアンケート調査に運用した事例を報告しています。

¹ 東京大学情報基盤センター
Information Technology Center, the University of Tokyo
a) sekiya@ecc.u-tokyo.ac.jp